

朝葉末の

(第三期卒業生贈桜星云歌)

加藤義夫 作歌

角倉邦彦 作曲

一

朝葉末の露を受け
夕歸鳥の影宿し
曙句ふ石狩に
玉の泉と湧きしより
思へば茲に三歳の
過ぎにし水路を偲ぶ哉

二

大気は凍り雪もやの
荒れし廣野の面をこむ
時しも高く天界に
光芒強き北極星
いさごと光る星くづは
我をばめぐり走るなり

三

かつらの若芽色も濃く
森に生氣の溢る時
奇しき天地の靈受けて
大和心と咲き出でし
蝦夷の深山の山櫻
我等が理想此處にあり

四

雲漠々に水ゆるぎ
大野の心我にあり
眞理求めて息まざる
久遠の望我にあり
衆愚の聲にまどはざる
我に男の子の覺悟あり

五

消ゆる榮華を夢に見て
虚しき名をば人よ追へ
北の荒野に三百の
健兒浮雲を嘲りつ
永遠に變らぬ美土に
注ぎし汗の寶を求む

六

黄花的牧に新緑の
森に鍛へよ鐵の腕
紅葉彩どる野に山に
吹雪の里に思想鍊れ
勉めよ奮へ我友よ
やがてぞ起たん時は來ん